

名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	腎移植後患者における皮膚前癌病変及び癌についての臨床病理学的検討		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～ (西暦) 2025 年 3 月		
研究実施診療科	病理診断科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	(西暦) 2021 年 2 月 8 日	
	院長が研究実施を許可した日	(西暦) 2021 年 2 月 9 日	
対象となる方	腎移植後、対象期間内に名古屋第二赤十字病院において、皮膚癌の診断を受けた方		
対象期間	(西暦)2003 年 4 月 ～ (西暦)2019 年 12 月		
主たる研究実施機関	愛知医科大学病院病理診断科 (研究代表者氏名： 都築 豊徳)		
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
当院の研究責任者	所属	病理診断科	氏名 前田 永子
研究の意義	これまでの研究で、長期の免疫抑制剤が使用されている腎移植後患者さんに、がんの発生率が高いことが知られています。しかしながら、多くの研究は欧米でなされており、日本人を対象とした研究はほとんど行われていません。この研究は、腎移植後患者さんのうち、皮膚がんの発生した患者さんの特徴を臨床・病理学的に調べて明らかにすることを目的としています。		
研究の目的	腎移植後の患者さんに発生する皮膚がんの特徴を明らかにすることを目的としています。		
研究の方法	対象の患者さんの臨床情報を生検・手術時に保存している既存試料(ホルマリン固定ブロック)を用い、特徴の検討を行います。		
研究に使用するもの	生検・手術時に保存している検体を用い、検討を行います。 診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。(年齢、性別等の基本情報、腎移植時の情報、皮膚がんの情報 等)		
診療情報等の他機関への提供方法	必要なデータを、研究担当者が氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離れた状態でデータベースに打ち込み、提供します。		

結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究には主たる研究機関である愛知医科大学病院病理診断科の講座研究費を使用します。外部からの資金提供はありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 病理診断科(非常勤) 谷口 奈都希 電話 052-832-1121 (代表)

《別紙》

【研究組織】

1. 研究責任者

愛知医科大学病院 病理診断科・教授・都築豊徳

2. 共同研究者

愛知医科大学病院 病理診断科・専修医・谷口奈都希

3. 共同研究者

名古屋第二赤十字病院 病理診断科・副部長・前田永子